

普及活動情勢報告

情勢報告（平成26年4月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

情勢報告

J A 四万十生姜部会研修会（3月27日）



囲いショウガの製品歩留まり率を低下させる茎落ち部陥没症について研究の現状と病害の簡単な見分け方を農業技術センターの担当研究員が、基本的な栽培技術は普及所から説明しました。

部会員からは活発な意見、質問があり、農業技術センターでの今後の研究に生産者の声が反映できる点がありました。また、研究成果・内容の周知ができ、定植前後の基本的な栽培技術について再確認してもらいました。

農事組合法人志和設立総会（4月21日）



志和営農組合（11人）は、専業農家によって構成されており、将来の担い手3名で営農可能な体制の確立や基盤整備の推進などの集落の課題解決に取り組むために法人化を図ることになりました。

設立総会では、全員一致で法人設立を決定しました。
 今後は、設立登記及び設立後の運営を支援します。

‘にこまる’栽培講習会（4月9日）



四万十町産米のブランド化に向け、エコ栽培米生産部会を対象に‘にこまる’の栽培講習会を開催し、11名が参加しました。

普及所からは‘にこまる’の品種特性や栽培管理について説明しました。

生産者からは「ブランド化に向け、栽培技術や販売について今後も検討して欲しい。」などの声が聞かれました。

今後も、四万十町産のブランド化に向け、品質・食味向上に向けた栽培技術や販売方法について支援していきます。

省エネ技術勉強会（4月21日）



国の燃油高騰対策緊急事業などを活用し、ヒートポンプなど省エネ機器の導入を検討している農家やＪＡ職員等を対象に、担い手育成センター職員を講師に招き、ヒートポンプの効果的な使用方法などについて勉強会を開催しました。

重油使用量の低減と電気使用料金の増加を加味し、効率的な温度設定の方法やハウス内温度の実測による温度ムラの確認など、具体的なポイントについて説明がありました。

ミョウガ農薬登録促進に向けた現地試験（4月）



薬剤散布作業

平成25園芸年度から、管内の一部の地域でワタアブラムシの薬剤感受性が低下したのではないかとされる事例が報告され始めました。とくにミョウガは登録農薬の種類が少ないことから、農業技術センターによる農薬登録促進に向けたほ場試験を実施しています。

また、ＪＡと協力してワタアブラムシに効果のある新規登録天敵農薬ヒメカメノコテントウなどの予備試験も始めています。